



津保名媛文

二

雜
10
二

9
3585
2



節 1 門
號 355
卷 2

口 9
3585
2

内房の中目録

- 一 飛んのおきてを忍事 付リ小女仕事
- 一 自家の善悪へ婦人乃ん能と忠告しにあり事
- 一 花散里を女に引事 付リ我慢悔負事
- 一 堀りくらぬ事 付リ浮舟を糸系事
- 一 焼地扇かどれもづさみをもんせの事
- 一 高登の事 付リ女ハ口のやをぬとり事
- 一 父母并夫の小袖自刃事 付リ上掲へ下とこと事
- 一 文王后妃をこそせ給ふ事
- 一 人を呼に女相付リ 男女差別事
- 一 女を文をく事 付リ揚妻妃の事
- 一 女一文れ事 付リ宰相高の事

明治三十一年十一月五日
坪内雄蔵氏寄贈



- 一 へんとくおほくたといふ
- 一 女いじさくつれ男に對面せげうす 付リ 扇乳母れす
- 一 越るまにあらうす 付リ 東霞うす 付リ 畠山殿中女貞草の
- 一 墨のいぬに石位をおひとて物活れす
- 一 四季のえん用とりす 付リ 杜山休これす 再 見お若志の
- 一 琴の琵琶節三味線尺八くさう 舞臺若子乃記といふ
- 一 けんと女のおりのていようらぬと云す 付リ 八卦占との
- 一 人よ喜信とす 付リ 末摘花乃す



田舎入文の中

只貴殿しやう人かて落よくゆをわまりたて実
 樹よおよすびくさくさくせほひく何おにほくせ
 けふとくんとぬくさくぬきききききききききき
 しくつあわらうさくさくさくさくさくさくさく
 申しくされしわくもみか内しりしりしりしりしり
 ぞとありしりしりしりしりしりしりしりしりしり
 ませよせいやせぬものしりしりしりしりしりしり
 潮くくしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり
 むとがぶしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり
 へんがぶが末かとしてしりしりしりしりしりしりしり
 りあはしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり



まじりて掌相義方なるまゝのむらもなごしたるがさあとの
おとぼけなるをけりてしむるがさあはれはれなるをけりて
おとぼけなるをけりてしむるがさあはれはれなるをけりて
おとぼけなるをけりてしむるがさあはれはれなるをけりて
おとぼけなるをけりてしむるがさあはれはれなるをけりて
おとぼけなるをけりてしむるがさあはれはれなるをけりて
おとぼけなるをけりてしむるがさあはれはれなるをけりて
おとぼけなるをけりてしむるがさあはれはれなるをけりて
おとぼけなるをけりてしむるがさあはれはれなるをけりて
おとぼけなるをけりてしむるがさあはれはれなるをけりて

おとぼけなるをけりてしむるがさあはれはれなるをけりて
おとぼけなるをけりてしむるがさあはれはれなるをけりて
おとぼけなるをけりてしむるがさあはれはれなるをけりて
おとぼけなるをけりてしむるがさあはれはれなるをけりて
おとぼけなるをけりてしむるがさあはれはれなるをけりて
おとぼけなるをけりてしむるがさあはれはれなるをけりて
おとぼけなるをけりてしむるがさあはれはれなるをけりて
おとぼけなるをけりてしむるがさあはれはれなるをけりて
おとぼけなるをけりてしむるがさあはれはれなるをけりて
おとぼけなるをけりてしむるがさあはれはれなるをけりて

ついでそのにけりしものもくしくしとありては
まらしくたりけんちうしものもくしくしとありては
てしうしものもくしくしとありては
しつたりしものもくしくしとありては
うしものもくしくしとありては
のまらしくたりけんちうしものもくしくしとありては
ふしものもくしくしとありては
ちしものもくしくしとありては
ひしものもくしくしとありては
かきしものもくしくしとありては
あんとしものもくしくしとありては
なるおしものもくしくしとありては

しついでそのにけりしものもくしくしとありては
てしうしものもくしくしとありては
しつたりしものもくしくしとありては
うしものもくしくしとありては
のまらしくたりけんちうしものもくしくしとありては
ふしものもくしくしとありては
ちしものもくしくしとありては
ひしものもくしくしとありては
かきしものもくしくしとありては
あんとしものもくしくしとありては
なるおしものもくしくしとありては

ぶしぬいふんららしくもせたることせうを
 始くされららうしはるまのふかそれを枕
 においさるしもちりつひもなりらんものまにあ
 えんせぬよこらうくよらうくもせぬ
 ぬしちふららのまのまのれんくひのまのま
 あらまのれまのまのれらひのまのまの
 わらんららうらうらうらうらうらうらうら
 とうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 けりうらうらうらうらうらうらうらうら
 せうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 がよらうらうらうら



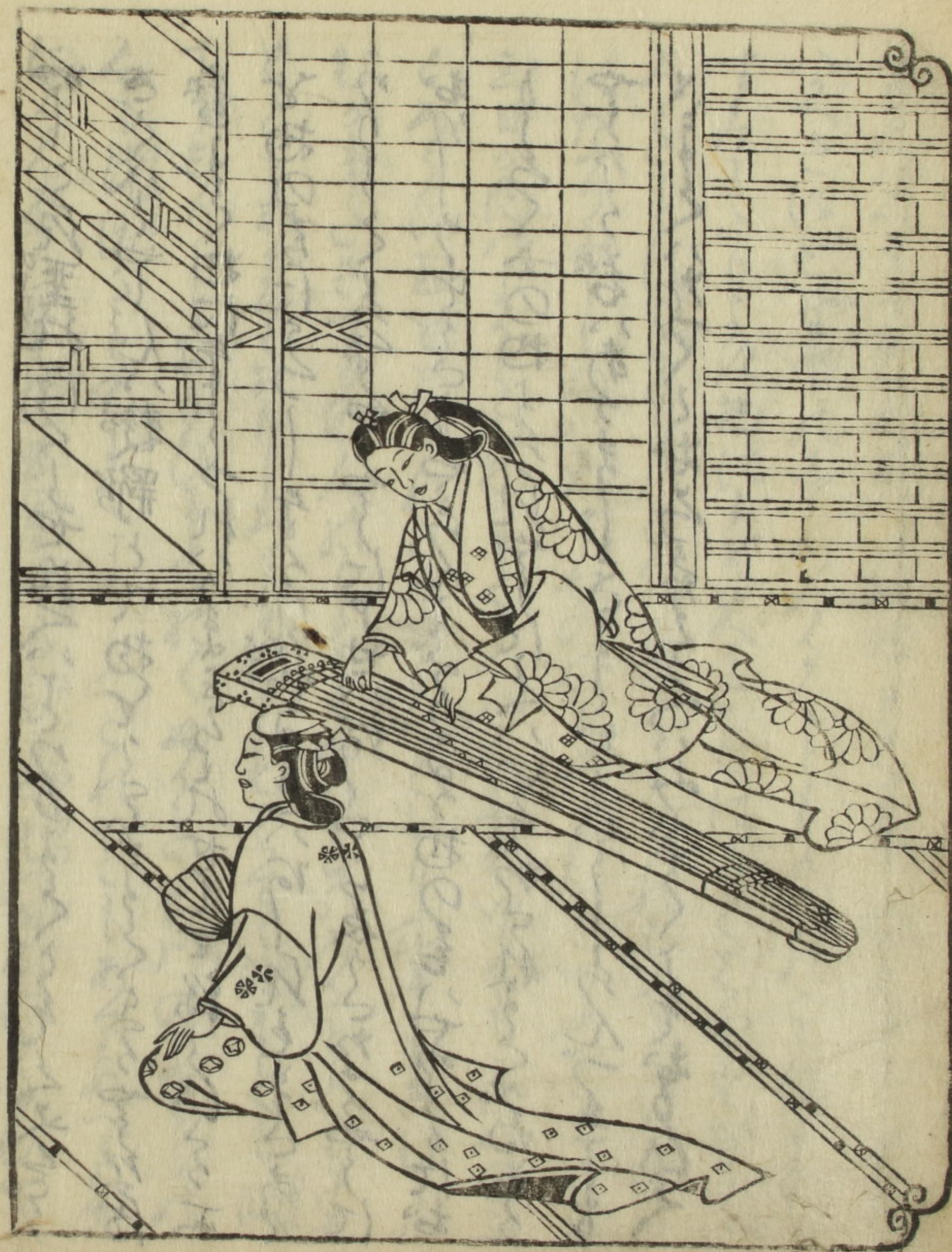
母をわつちばは世のさふら—とありくに読に記つ
は登れ桑のこに擲くてもきり痛あそひとくちつ
よくとくちつとらんわに美のおこりれつわぐりて
つれなきさんともんをりてそまじがむつと
ひらくこと借ものおとる丹花れ借ま暮のま
あり書れきる—よふ神の意なり—のまじつた
さつらありれがり借にあつたおくらにれやれ
ふまじつたかたどりさむもおま—きづつ
せ給ふま—たれ一向く物流にはらと借
やあをるれとれつひとあり—あつた
ふまじつたそそ天が中におく人—のれ
やあをるれとれつひとあり—あつた

あまぶとくちつち昔のすれすれ人
つたけも—とるぬにらあつた
ふまじつたそそ天が中におく人—のれ
やあをるれとれつひとあり—あつた
ふまじつたかたどりさむもおま—きづつ
せ給ふま—たれ一向く物流にはらと借
やあをるれとれつひとあり—あつた
ふまじつたそそ天が中におく人—のれ
やあをるれとれつひとあり—あつた

あまぶとくちつち昔のすれすれ人

おかしきやうな事いふたはもてくわすに結ぶにきりて
たつとておの中はきりておくともてしはしとてきり
すかきりておはしきりておはしきりておはしきり
らさしとておはしきりておはしきりておはしきり
になりておはしきりておはしきりておはしきり
にさしとておはしきりておはしきりておはしきり
くらしとておはしきりておはしきりておはしきり
むらましとておはしきりておはしきりておはしきり
おくともあらしきりておはしきりておはしきり
てがしきりておはしきりておはしきりておはしきり
ふておはしきりておはしきりておはしきりておはしきり
にへんたるりおはしきりておはしきりておはしきりて

かゝるに聖れはきりておはしきりておはしきりて
さくはしとておはしきりておはしきりておはしきり
おはしきりておはしきりておはしきりておはしきり
おはしきりておはしきりておはしきりておはしきり
おはしきりておはしきりておはしきりておはしきり
おはしきりておはしきりておはしきりておはしきり
おはしきりておはしきりておはしきりておはしきり
おはしきりておはしきりておはしきりておはしきり
おはしきりておはしきりておはしきりておはしきり



そちにてはつら田舎人山姥なごのやうなあはれし
くは原氏物鏡と見えぬ末摺られ世方よりおんおの
とちとち一帳束をおく一踏踏ふにたれり〜く
のぶらゆにふらよせゆりぬ世方とつづかぬ
とこびと女と世にたの事おり〜ま〜い
とこびとゆり〜こら〜ま〜い
とこびとゆり〜こら〜ま〜い
とこびとゆり〜こら〜ま〜い
とこびとゆり〜こら〜ま〜い
とこびとゆり〜こら〜ま〜い
とこびとゆり〜こら〜ま〜い
とこびとゆり〜こら〜ま〜い
とこびとゆり〜こら〜ま〜い
とこびとゆり〜こら〜ま〜い
とこびとゆり〜こら〜ま〜い

西の十七

